

2026年5月11日

各 位

会 社 名 株式会社ナカボーテック  
代表者名 代表取締役社長 宮 地 誠  
(コード番号: 1787 東証スタンダード市場)  
お問合せ先 常務執行役員 管理本部 副本部長  
兼 総務部長 浅 木 直 嗣  
TEL. 03-5541-5801  
[soumuir@nakabohtec.co.jp](mailto:soumuir@nakabohtec.co.jp)

### 中期経営計画「26中計」策定のお知らせ

当社は、2026年度から2028年度の3年間を対象とした中期経営計画「26中計」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

#### 記

1. 計画の名称 26中計
2. 期間 2026年4月 ～ 2029年3月
3. 概要 添付『中期経営計画「26中計」』をご参照ください

#### ◇添付資料

『中期経営計画「26中計」』

以上

# 100年、届ける。

創業100周年を見据えた能動的改革へ

中期経営計画「26中計」(2026~2028)



# 工事売り切り型から知識集約型へと転換し、 強固な経営基盤で事業の成長を目指す。

## 目標(KPI)

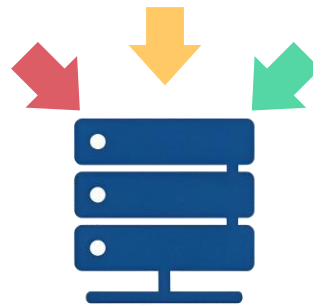


売上高 **165** 億円

営業利益率 **10.0** %超

ROE **11.0** %超

## 成長戦略



工事売り切りから

**知識集約へモデル転換。**

(データ・保証)

国策(防衛)、洋上風力のO&Mの開拓

## 成長投資



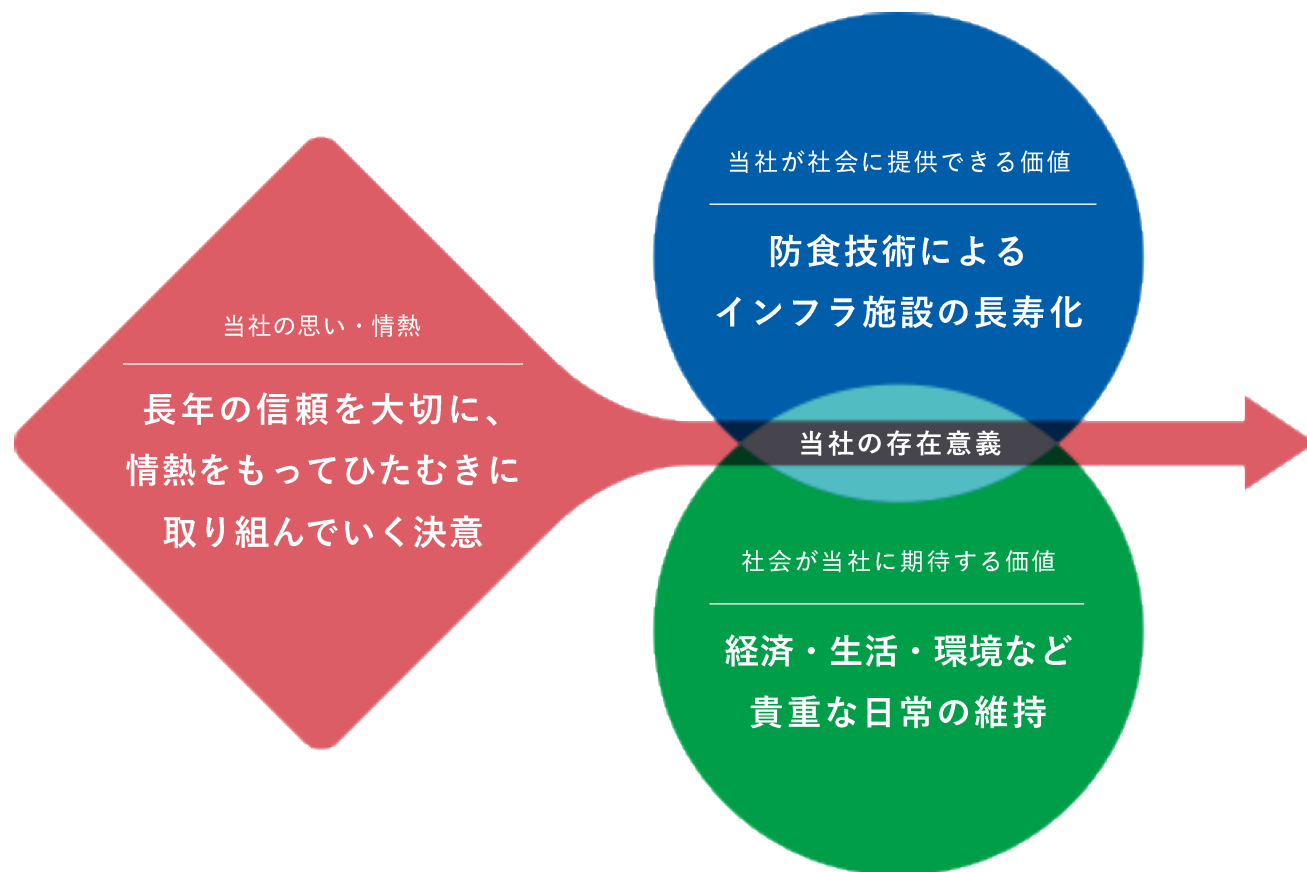
未来への戦略投資枠として

**3年間で10億円規模**を設定。

ROV・R&D・人材・システムへ集中投下。

▶O&M(Operation & Maintenance)：維持管理事業。当社が長年蓄積した防食データを活かし、パーパスを基軸とした「インフラの主治医」として構造物の健全性を継続的に支える、知識集約型の中核領域。▶ROV(Remotely Operated Vehicle)：遠隔操作型水中ロボットによる点検技術。洋上風力・港湾分野で潜水作業を代替し、安全性と生産性を飛躍的に高める次世代の調査手段。▶R&D(Research & Development)：防食・診断技術の研究開発。技術的優位性を持続させ、知識集約型モデルの競争力を支える戦略投資。

私たちの企業活動そのものが、社会に求められるもの。  
だからこそ、真摯に、ひたむきに、まっすぐに。



[ パーパス ]

ひたむきに防食技術を追求し、  
社会基盤の価値をまもり続けることにより、  
安全安心な日常を次代につなげます

[ スローガン ]



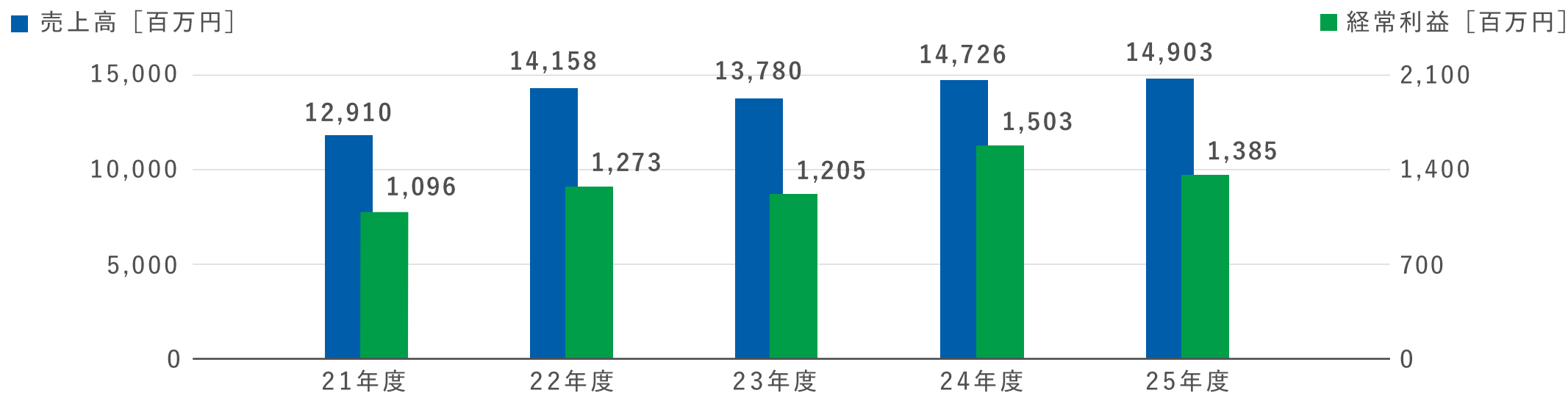
いまある“価値”を次代へ！

# REFLECTION

## 2 3 中計振り返り

- P.05 事業報告
- P.06 DXとサステナ体制
- P.07 エンゲージメント向上施策
- P.08 市場環境

# 売上高149.0億円(25年度)を達成。 次の成長ステージへ、稼ぐ力の質的転換に挑む。



売上高	実績	13,780	14,726	14,903
	目標	13,300	13,900	14,500
経常利益	実績	1,205	1,502	1,385
	目標	910	1,031	1,318

# DXによる生産性向上とサステナビリティ強化で 着実な成長基盤を構築。

## DX推進による業務効率化



## バックオフィス改革



※対象：通年勤務者

## サステナビリティ推進



▶CDP評価：企業の気候変動対応を国際基準で格付けする評価制度。

▶GHG排出量：温室効果ガス排出量。

# 次代への布石として、処遇・環境の改善とインナーブランディングにより、「エンゲージメント向上」の基盤を構築。

## 働きやすさ 環境



2023年度以降継続的な  
ベースアップ実施

現場社員の意見を反映した  
作業用ユニフォームのリニューアル

九州支店・東北支店のオフィス改装

## 働きがい 育成



パルスサーベイによる  
コンディション把握

キャリアデザインシートを活用した  
キャリアパス支援

階層別研修を通じたスキルの底上げ

## 誇り 共感

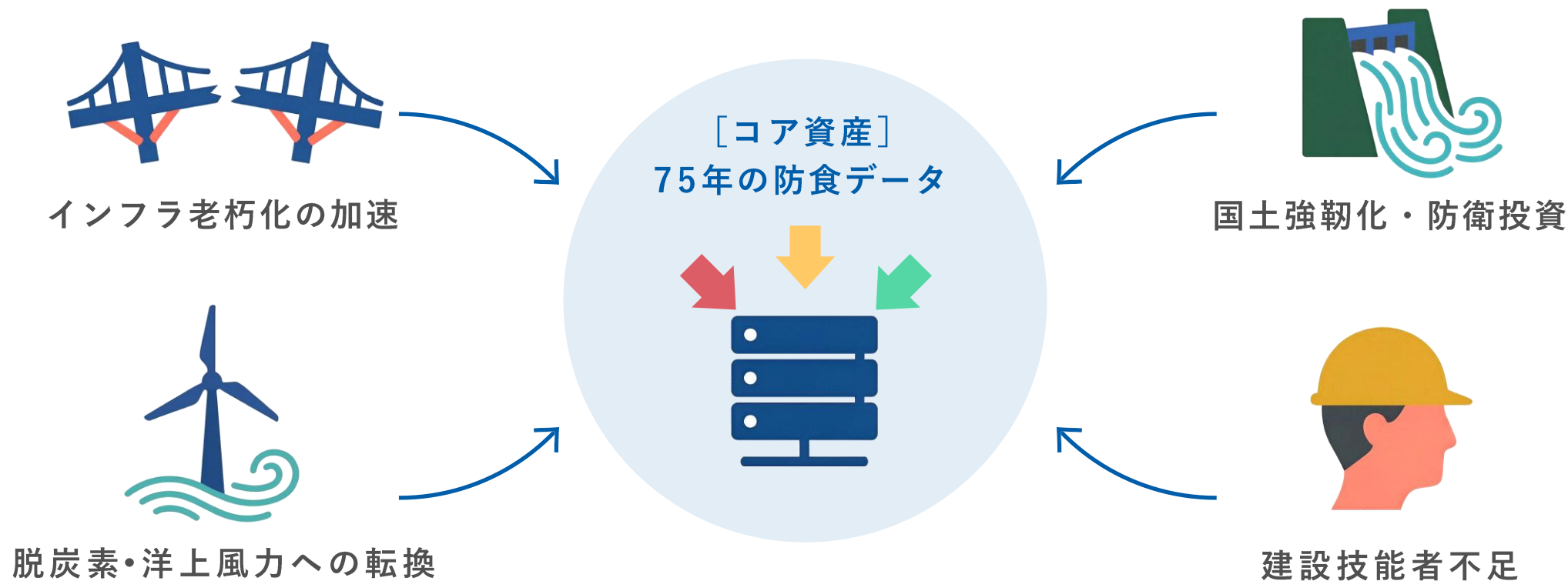


パーパス啓発ポスターの展開

ラジオCMによる広報活動

コーポレートサイトおよび  
採用サイト刷新による認知と  
採用基盤の強化

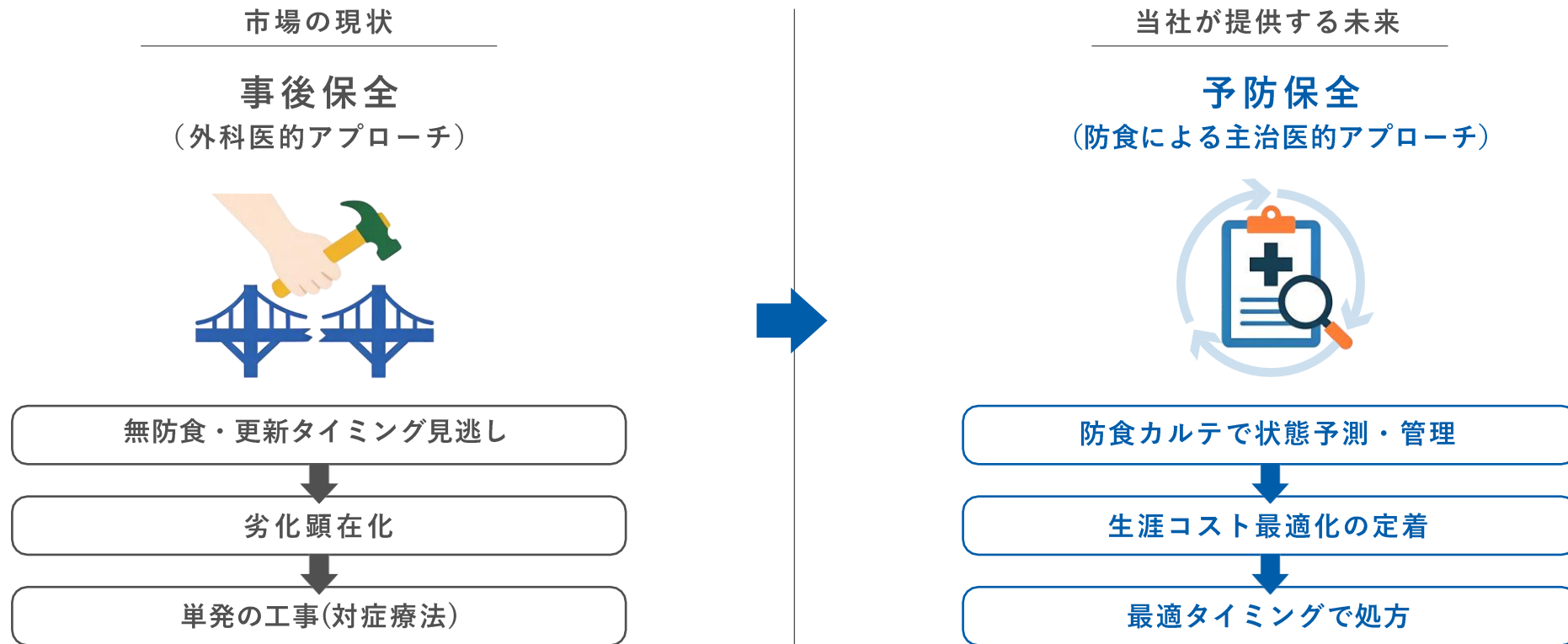
# インフラ老朽化と脱炭素の波は、75年のデータ資産を持つ当社が「知識集約型」へ飛躍する最大の好機。



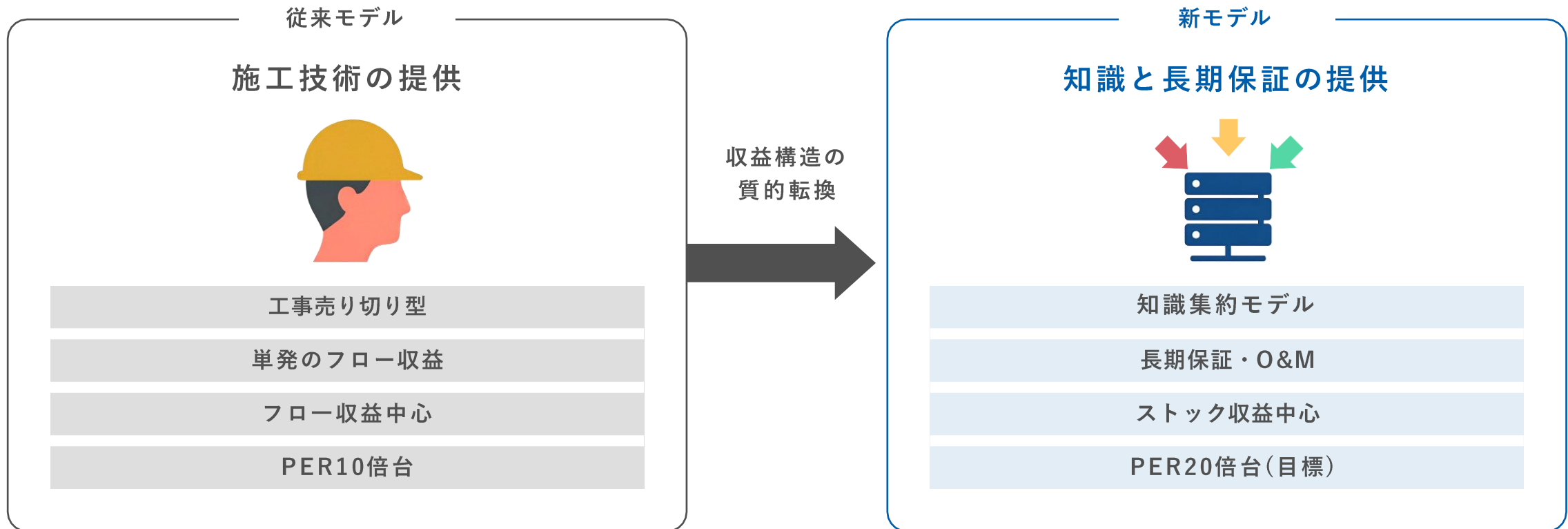
# 2051年ビジョン

- P.10 持続可能な社会基盤の創出
- P.11 総合インフラ保全への進化
- P.12 創業100周年までの戦略ロードマップ

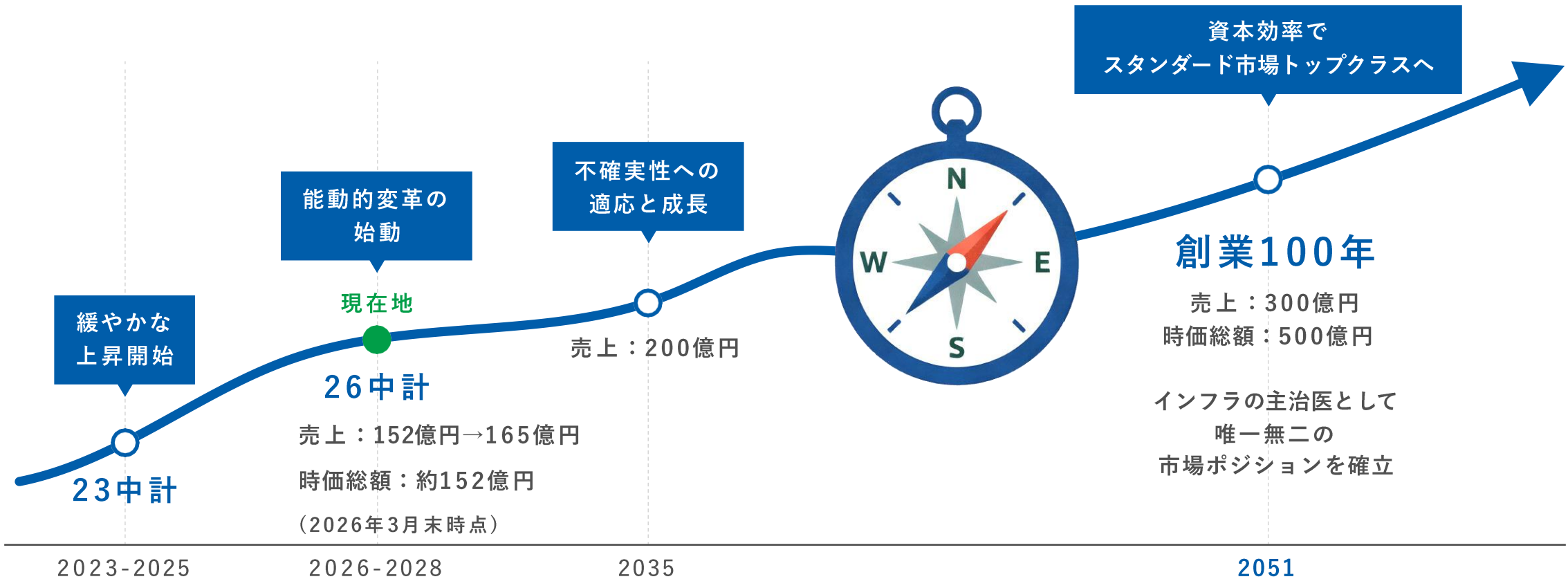
# 新設・既設を問わず劣化を予測する パーパスを基軸とした「インフラの主治医」として構造物の寿命を最大化。



「施工技術の提供」から「知識と長期保証の提供」へ。  
収益構造の質的転換により、新たな市場評価を獲得する。



# VUCA時代の不確実性を乗り越え、 2051年 創業100周年へ向けた長期成長軌道。



# 2051年ビジョンに向けた 中期経営計画(2026-2028)

P.14 3領域の強化

## ①事業別成長の強化

P.15 1-1 技術開発R&D戦略事業

P.16 1-2 港湾事業

P.17 1-3 地中事業・陸上事業

P.18 1-4 洋上風力発電事業

P.19 1-5 RC事業・海外事業

P.20 1-6 26中計の推進による売上見込み

P.21 1-7 全事業共通戦略

## ②経営基盤の強化

P.22 2-1 DX戦略

P.23 2-2 施工管理のデジタル改革

P.24 2-3 組織改編・人的資本経営

P.25 2-4 人的資本経営

P.26 2-5 サステナビリティ戦略

## ③財務の強化

P.27 3-1 財務戦略

## ビジョン実現のため

### 「事業」「経営基盤」「財務」の3領域を強化。



#### 1 事業別成長の強化

建設後50年以上経過する  
社会資本の延命化への取り組み。  
再生可能エネルギー、港湾・物流インフラ等の  
成長分野への集中投資と事業拡大を推進。



#### 2 経営基盤の強化

DXの推進、人材育成、  
ガバナンス強化を通じた  
経営基盤の抜本的な強化。

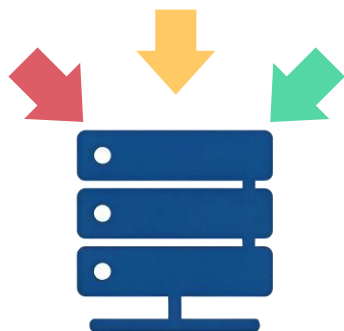


#### 3 財務の強化

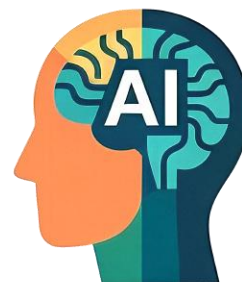
財務規律の維持と成長投資の両立、  
株主還元強化による企業価値向上。

# 「75年の実測データ」と「AI」を融合し、 高精度寿命予測モデルを実装。

75年の実測データ



最新AI



+

=

防食カルテ  
(高精度寿命予測)



独自の競争優位性

- ・産学連携による技術強化：東京大学、九州大学との共同研究
- ・CUI早期検知技術などの独自技術開発
- ・データに基づくコンサルティングで、専門性による差別化を推進

▶CUI(Corrosion Under Insulation)：保温材下腐食。配管等の保温材内部で進行し外観からは発見困難な潜在的腐食現象。プラント・インフラ分野で重大事故の主要因とされる。

# 独自工法による生涯コスト最適化の定着・標準化を確立し、 国策・防衛プロジェクトでの特定重要拠点を獲得。



## 独自工法(RTP<sup>®</sup>等)の標準化

工期短縮と環境配慮を両立するRTP工法等を標準化し、生涯コスト最適化の定着。



## 国策・防衛プロジェクトの全国展開

国策・防衛に関する様々なデータを基盤に、日本全国の重要拠点へと横展開し、収益の大幅拡大を目指す。



## 世界標準であるAMPP(CP4)認定資格者の活用

高度な専門性とグローバルな実績を武器に、信頼性を担保し市場での優位性を確立。

全国にあるインフラ施設の防食カルテをフル活用し、  
データを元に、最適な防食提案を実施する。



## 拡大する洋上風力市場に対し、 遠隔監視やROVを活用した「長期性能保証・O&Mモデル」を推進



30年防食保証サブスクリプションモデル(ハイブリッド保証)

「作って終わり」からの脱却、高収益なO&M事業へ

# RC電気防食の国内市場をさらに深化させ、 海外インフラ市場の開拓に挑む。

## RC事業

### 国内シェアNo.1の深化



#### 国内パイオニア、トップシェア

1986年に土木研究所と実証実験を開始。1989年に国内初施工。以来、コンクリート構造物の電気防食で国内シェアNo.1。



#### 次世代工法で市場を拡げる

NAKAROD®：電源不要・30年耐用ユニット方式(NEXCO中日本と共同開発)。TCユニット方式：PC構造物にも適応可能な外部電源方式。



#### 防食カルテとの融合で予防保全へ

高速道路・橋梁・港湾の塩害対策需要が拡大。防食カルテによる劣化予測と組み合わせ、最適タイミングでの処方を提案。

▶RC電気防食：鉄筋コンクリート(Reinforced Concrete)構造物の鉄筋腐食を、微弱電流を流して防止する技術。塩害劣化した橋梁・港湾構造物等の延命化に有効。

## 海外事業

### 防食技術のグローバル展開



#### ターゲット市場：東南アジア

港湾・石油化学プラント・発電所など、高温多湿・塩害環境は防食技術が最も生きるエリア。



#### ODA案件を皮切りに展開

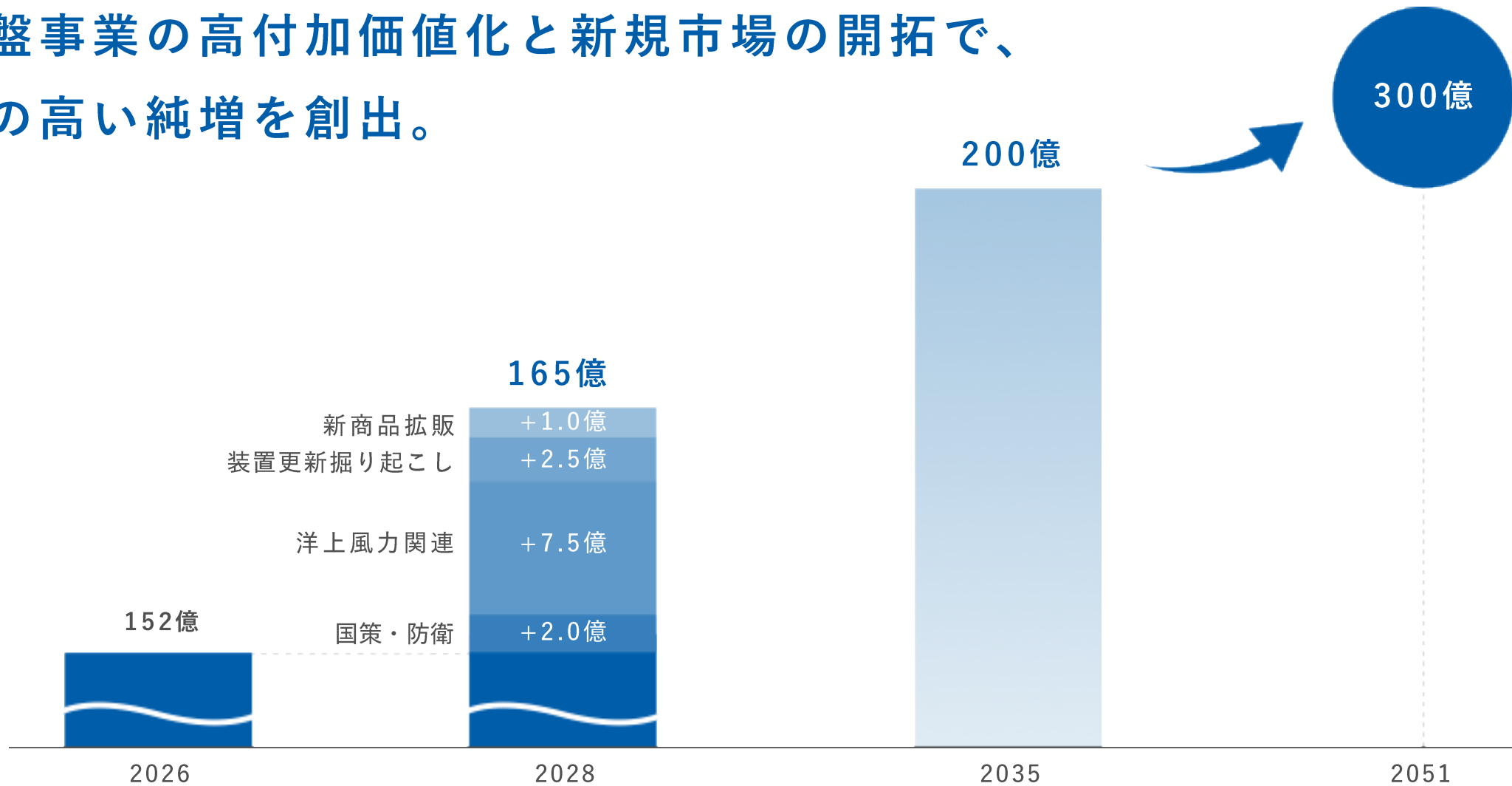
日本政府のインフラ輸出・ODA案件を足がかりに、現地での実績を蓄積し、さらなる市場を開拓。



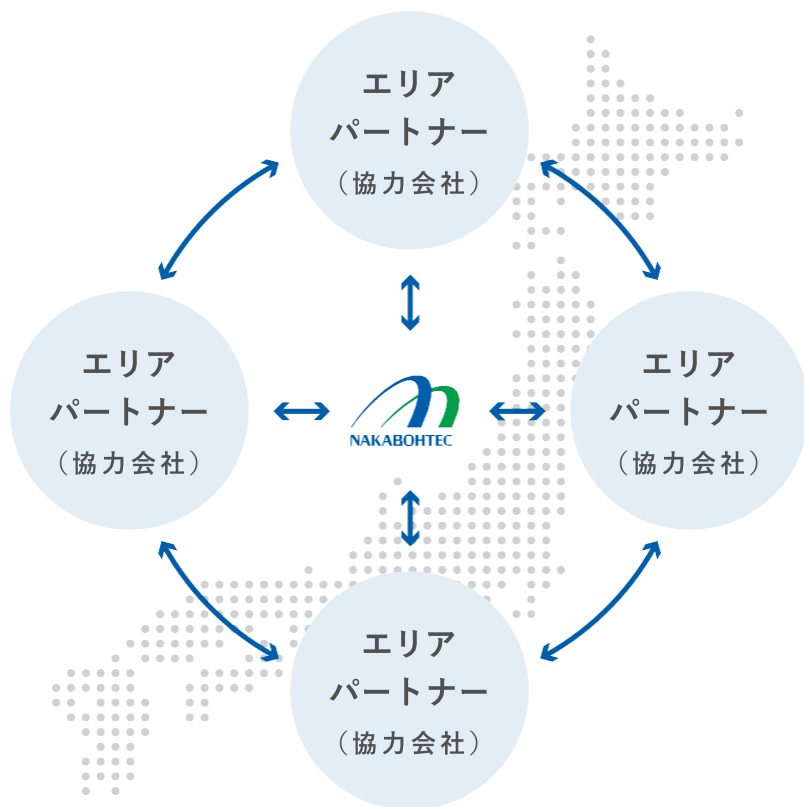
#### AMPP国際資格による信頼構築

CP4等の国際標準資格保有者の専門性を武器に、技術コンサルティングから段階的に事業を拡大。

基盤事業の高付加価値化と新規市場の開拓で、  
質の高い純増を創出。



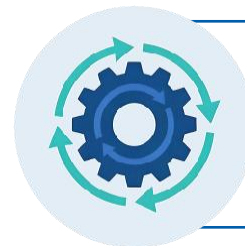
# 全国のパートナー企業とより密接な協働体制により 施工キャパシティ拡張と品質担保を両立。



強固なパートナーシップによる  
安定的な施工体制の構築



最新機材(ROV等)の共有による  
現場の安全性・生産性向上

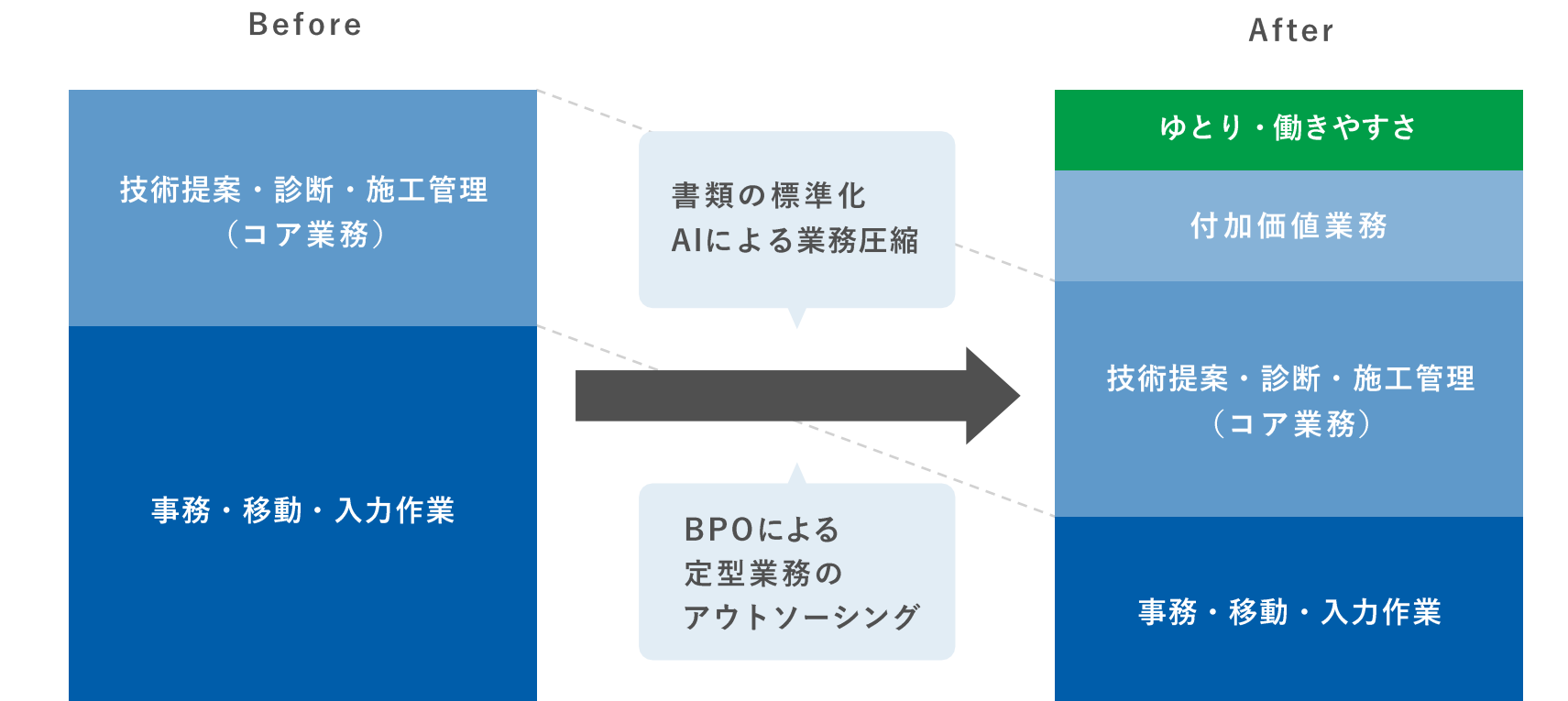


技術とデータの連携による  
インフラ保全の業界標準化

# 見積から請求までを繋ぐ 「ワンストップシステム」の構築による最適化。



書類の標準化、AIによる省力化、BPO(外部リソース)を活用し、現場の事務負担を軽減し、付加価値業務を拡大。



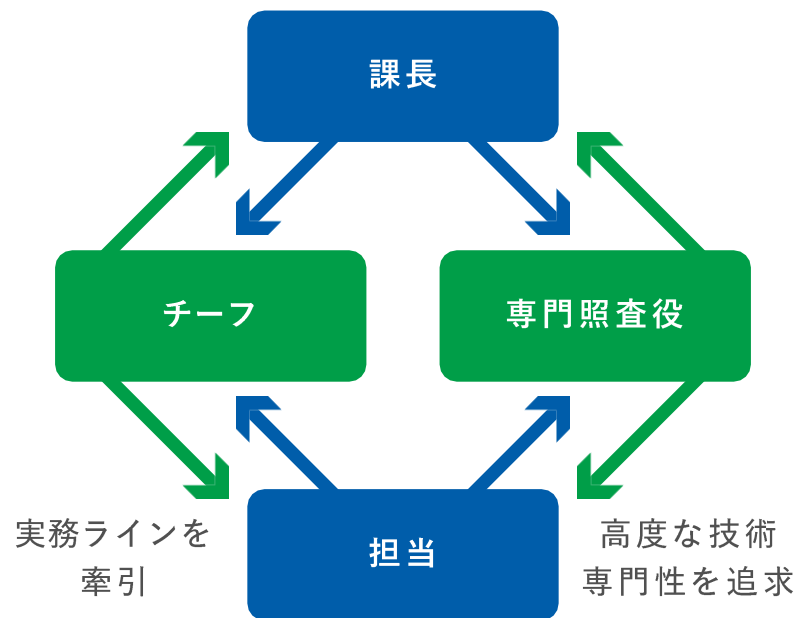
# ガバナンス強化をベースにした、意思決定の迅速化と自律型組織の構築、人事ポリシーの改定による評価の透明化。

## ガバナンス強化を実施

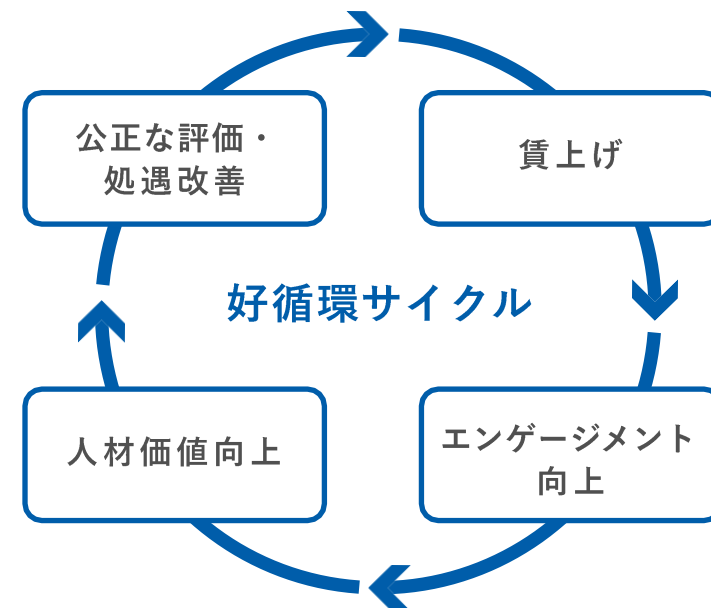
社外取締役の知見活用、  
女性管理職比率の段階的向上



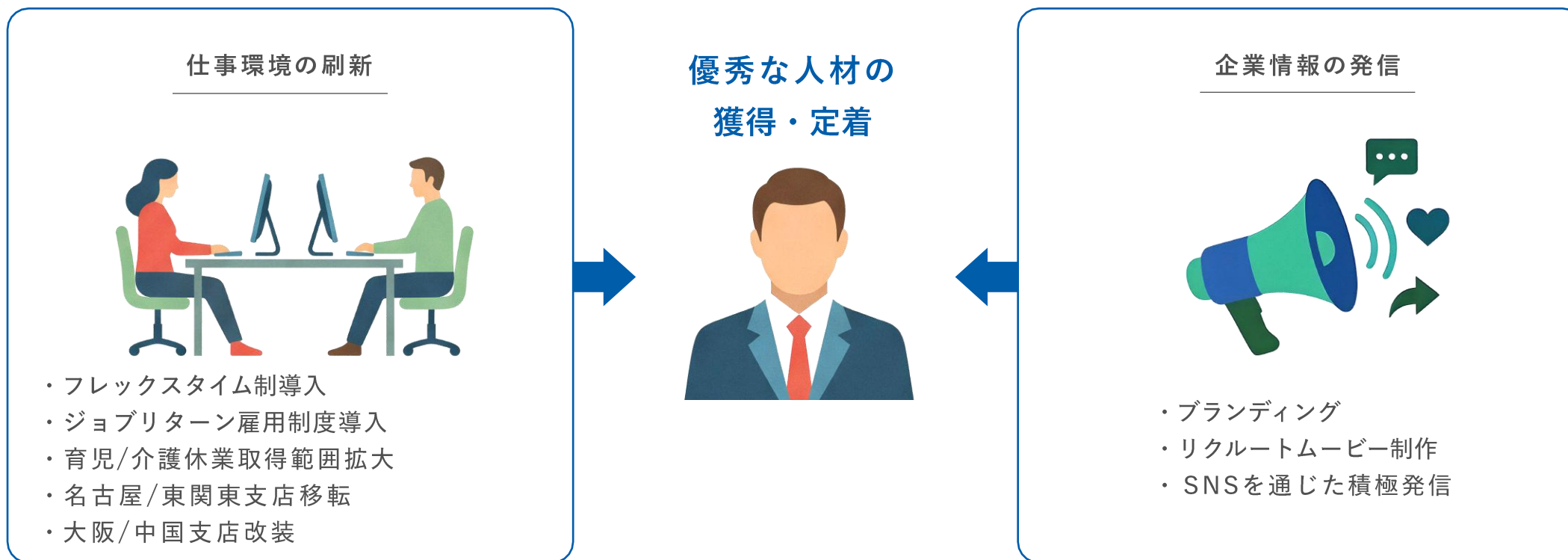
## 意思決定の迅速化と自律型組織



## 人事ポリシー



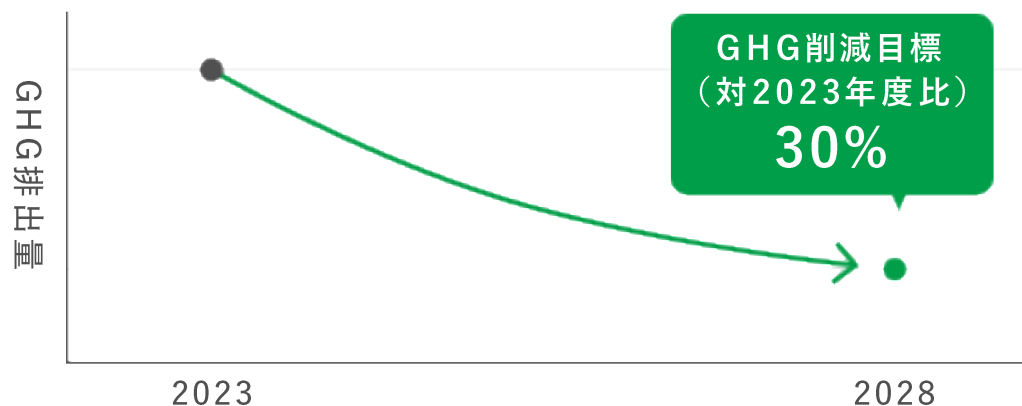
仕事環境を整え、企業情報を積極的に発信することで、  
企業価値を向上し優秀な人材の獲得と定着を促す。



# 自社および、サプライチェーン全体での GHG(温室効果ガス)の削減。

## 自社の取組み

### GHG削減と環境経営



ハイブリッド車導入率 **86%**  
(FY2028 目標)

## 本業を通じた社会貢献

### インフラ長寿命化によるCO<sub>2</sub>削減



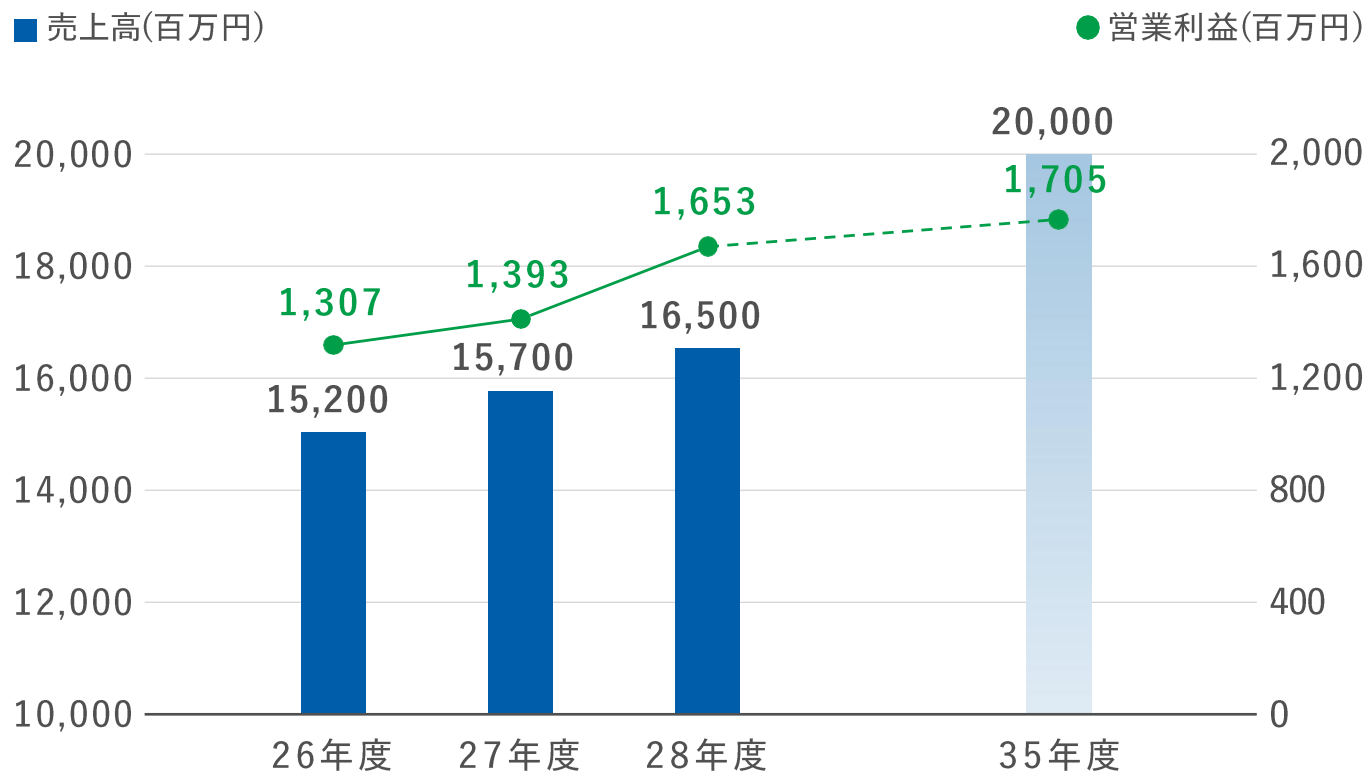
従来の建て替え

長寿命化

防食による社会インフラの長寿命化により、  
改築・改装需要の省略化からCO<sub>2</sub>排出量の削減を実現。

※Scope3削減への直接的貢献

## 2028年度の経営目標達成と、 成長投資・株主還元の両立による持続的な企業価値向上。



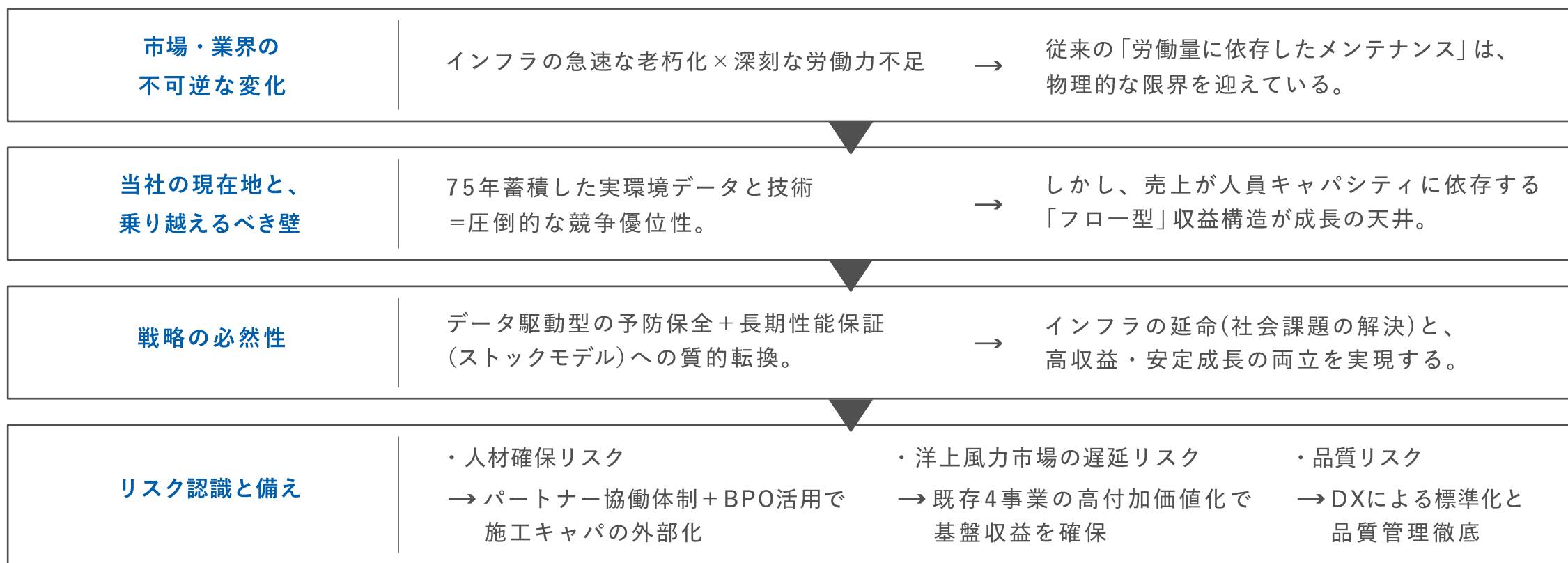
### 2028年度財務目標

営業利益率 **10.0%**超  
ROE **11.0%**超

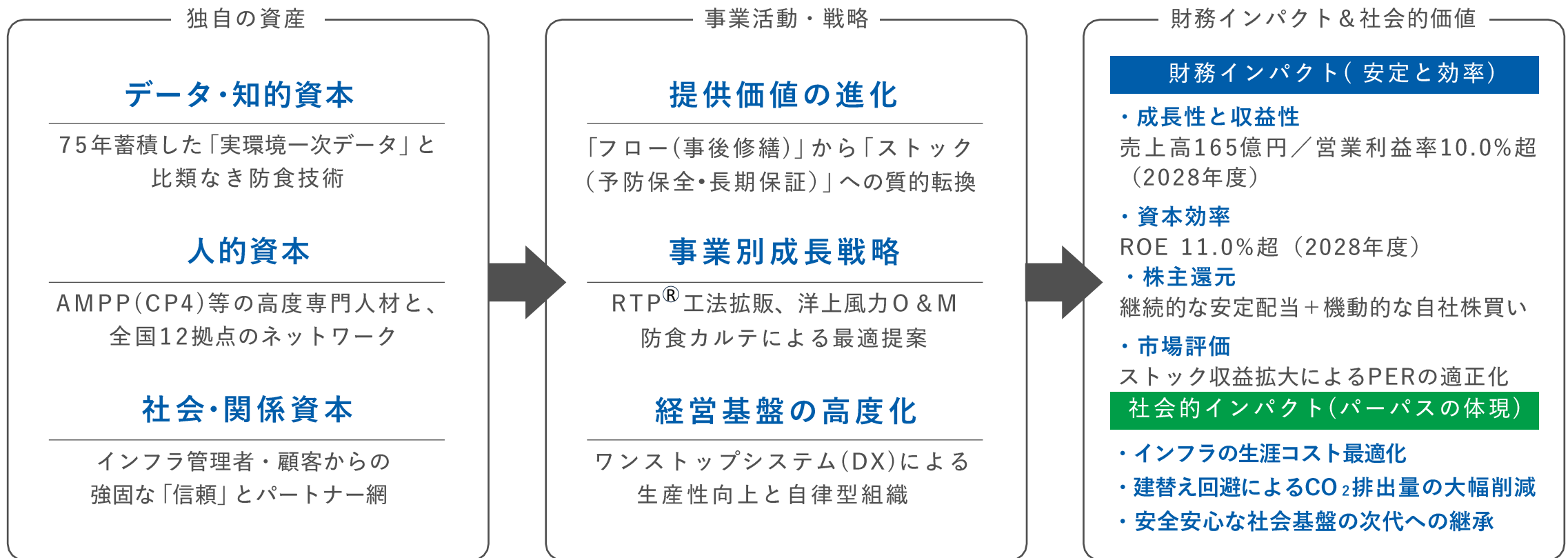
### 資本配分政策

- 成長投資：3年間で10億円規模  
(ROV・R&D・人材・システム)
- 株主還元：継続的な安定配当＋機動的な自社株買い
- 財務規律：資本コストを上回る収益性を堅持  
投資案件ごとの回収基準を設定・運用

# 時流を読んで施策を進め、 企業としてのさらなる高みを目指す。

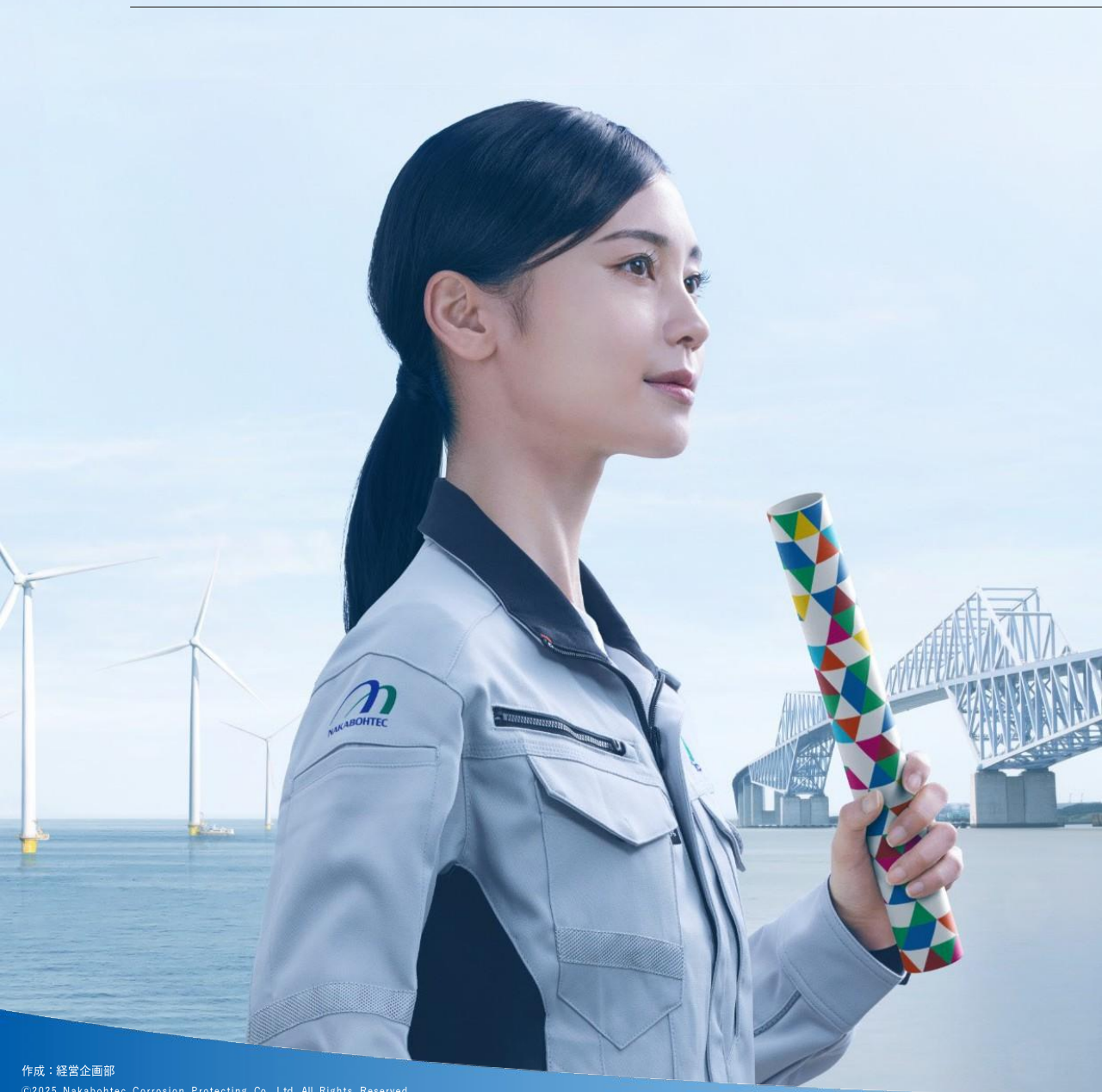


# 企業資産をベースにした戦略を進め、 財政面と社会的価値の向上に取り組む。



# 中計の達成は、各部署が「目指す成果」を共有し、 明日からの「具体的行動」を変えることから始まる。

	成長戦略(稼ぐ力の進化)	経営戦略(経営基盤の強化)	財務戦略(資本効率の追求)
営業	<b>指名受注・長期契約</b> 防食カルテ起点の生涯コスト最適化提案	<b>組織営業への脱皮</b> 属人化の廃止・案件情報一元管理	<b>適正粗利の絶対確保</b> 価格競争回避・長期保証の訴求
技術 (設計/R&D)	<b>次世代インフラへの実装</b> データ×AI寿命予測・新工法実用化	<b>リードタイム半減</b> 過去データ活用・設計プロセス標準化	<b>過剰品質の防止</b> 顧客要求の見極めと最適設計
製造・調達・施工	<b>新技術の現場最適化</b> ROV等安全運用・ノウハウ蓄積	<b>コア業務への集中</b> パートナー指導強化・BPO活用	<b>現場単位の利益最大化</b> 手戻り撲滅・最適化
管理 (総務/経理等)	<b>現場機動力の最大化</b> 全社横断のデータ基盤整備	<b>自律と意思決定の迅速化</b> 新制度運用・データガバナンス徹底	<b>投資対効果(ROI)極大化</b> 成長投資の厳格配分・コスト可視化



2026年に迎える、創業75周年。  
パーパスを大きな指針として  
「いまある価値」をまもり、次代へと届けていく。  
それこそがまさに、  
私たち100年の存在意義となる。

 いまある“価値”を次代へ!